

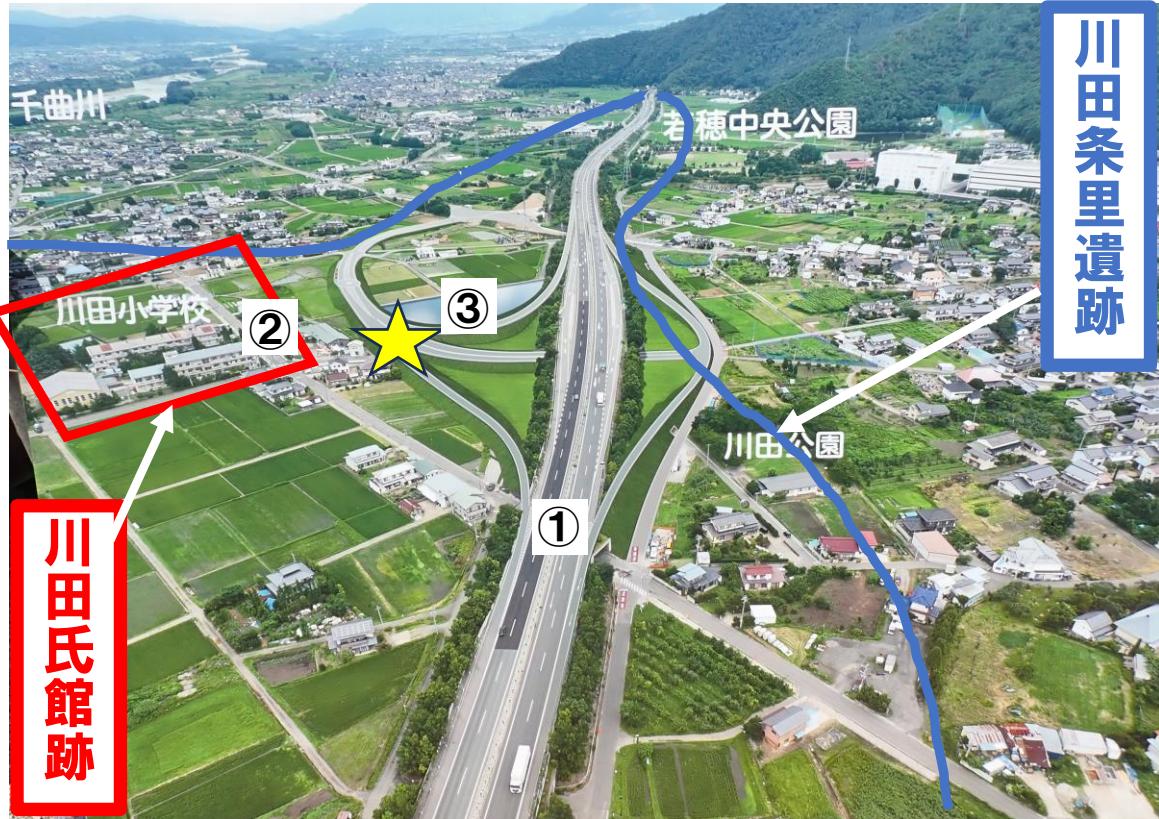
(仮称) 若穂スマートIC整備事業に伴う発掘調査

かわだじょうり

川田条里遺跡 発掘調査現場公開 資料

令和7(2025)年10月1日(水)・10月2日(木)
(一財) 長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

川田条里遺跡



(仮称) 若穂スマートインターチェンジ計画イメージ図 (提供 NEXCO東日本) に加筆

★公開発掘調査現場 (数字は過去の調査地点)



《川田条里遺跡ってどんな遺跡?》

川田条里遺跡は、千曲川右岸の後背湿地上に位置する水田遺跡です。

1989～1990(平成元～2)年に長野県埋蔵文化財センターが上信越道建設事業に伴い発掘調査を実施し(①)、弥生時代中期から近世まで各時期の水田跡が重なっていることを確認しました。特に古墳時代と奈良時代の小区画水田と、奈良・平安時代の条里型水田の発見は、全国的にも注目されました。

また、川田条里遺跡範囲内の川田小学校周辺には、中世の居館跡である川田氏館跡があります。1999(平成11)年に長野市教育委員会が、川田小学校に隣接する川田保育園(現 認定こども園川田)の改築工事に伴い発掘調査を実施し(②)、15世紀後半の室町時代館跡に係る工作遺構を発見しました。

(仮称) 若穂スマートIC整備事業に伴う発掘調査では、2023(令和5)年長野県埋蔵文化財センターが調整池部分の発掘調査を行い(③)、2棟の掘立柱建物跡がみつかり、その柱穴からは鎌倉時代13世紀前半のカワラケ(素焼きの小皿)が出土しました。また、これらの建物跡を取り囲むように溝跡が見つかったため、溝で区画された屋敷地であったと考えられます。

さらに鎌倉時代の屋敷地の約20cm下層から水田跡がみつかり、その畦畔(あぜ)の中からは、建物の部材を芯材として再利用し畦畔を支えていた事例もみつかりました。

中には長さ4mに及ぶ「造出柱」とよばれる高床建物に用いられていた部材も使われていました。今から約1500年前の古墳時代中期頃という放射性炭素年代測定の結果が出ているので、この水田はそれ以降に営まれていたと考えられます。

今年度の調査対象範囲は、鎌倉時代の屋敷地が見つかった2年前の調査地点(③)と、室町時代の工作遺構が見つかった現認定こども園川田(②)の真ん中に位置します。

今年度の調査成果：遺物編

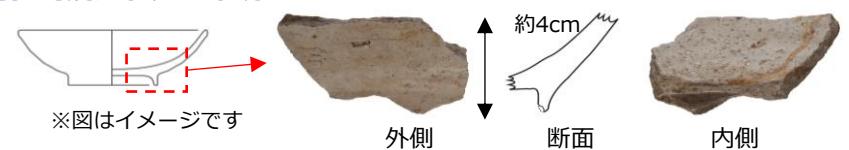
鎌倉時代から室町時代

土器・陶磁器では、地元産のカワラケ、能登半島の珠洲産のすり鉢、尾張(おわり・現愛知県西部)産の山茶碗、美濃中津川(現岐阜県中津川市)産の甕(かめ)、中国産の青磁・白磁などの破片があります。いろいろな地域と広く交流があったことがうかがえます。

鍛冶関連遺物として、羽口(鍛冶炉へ風を送る土製の管)、鉄滓(鍛冶の際に出る鉄くず)などがみつっています。

くわしい遺物の時代分析はこれからですが、今年度出土した中世の遺物は、令和5年度調査部分(左図③)でみつかった鎌倉時代のカワラケなどより約100年ほど新しく、平成11年度部分(左図②)で出土した遺物よりはやや古いようです。中世館跡に関連する周辺での人びとの活動は、かなり長い間行われていたことが推定されます。

尾張で焼かれた山茶碗



美濃中津川の窯で焼かれた陶器(甕)



古墳時代から奈良時代

水田の畦にともなって設けられた木の杭などがみつっています。古墳時代の甕や奈良・平安時代の須恵器の破片なども出土していますが、水田跡のため、土器の出土はわずかです。

今年度の調査成果：遺構編

鎌倉時代から室町時代

地表下約80cmで、14世紀～15世紀初め頃の掘立柱建物跡、溝跡、鍛冶関連遺構、その他たくさんの穴が検出されています。

鍛冶関連遺構は、中世居館の周辺部で見つかる傾向があり、調査区が川田氏館跡の周辺部に当たる可能性が考えられます。

古墳時代から奈良時代

中世遺構面より約20cm下層で、古墳時代から奈良時代頃の水田跡が検出されました。十字に交差する畦畔もみついています。

調査区壁面の観察では、古墳時代から現代にいたるまで、少なくとも7つの水田跡が確認されています。

《古墳時代から奈良時代の水田跡》



T14 古墳時代から奈良時代の水田跡
やや明るい色の部分が畦畔（あぜ）です。
（点線は加筆）

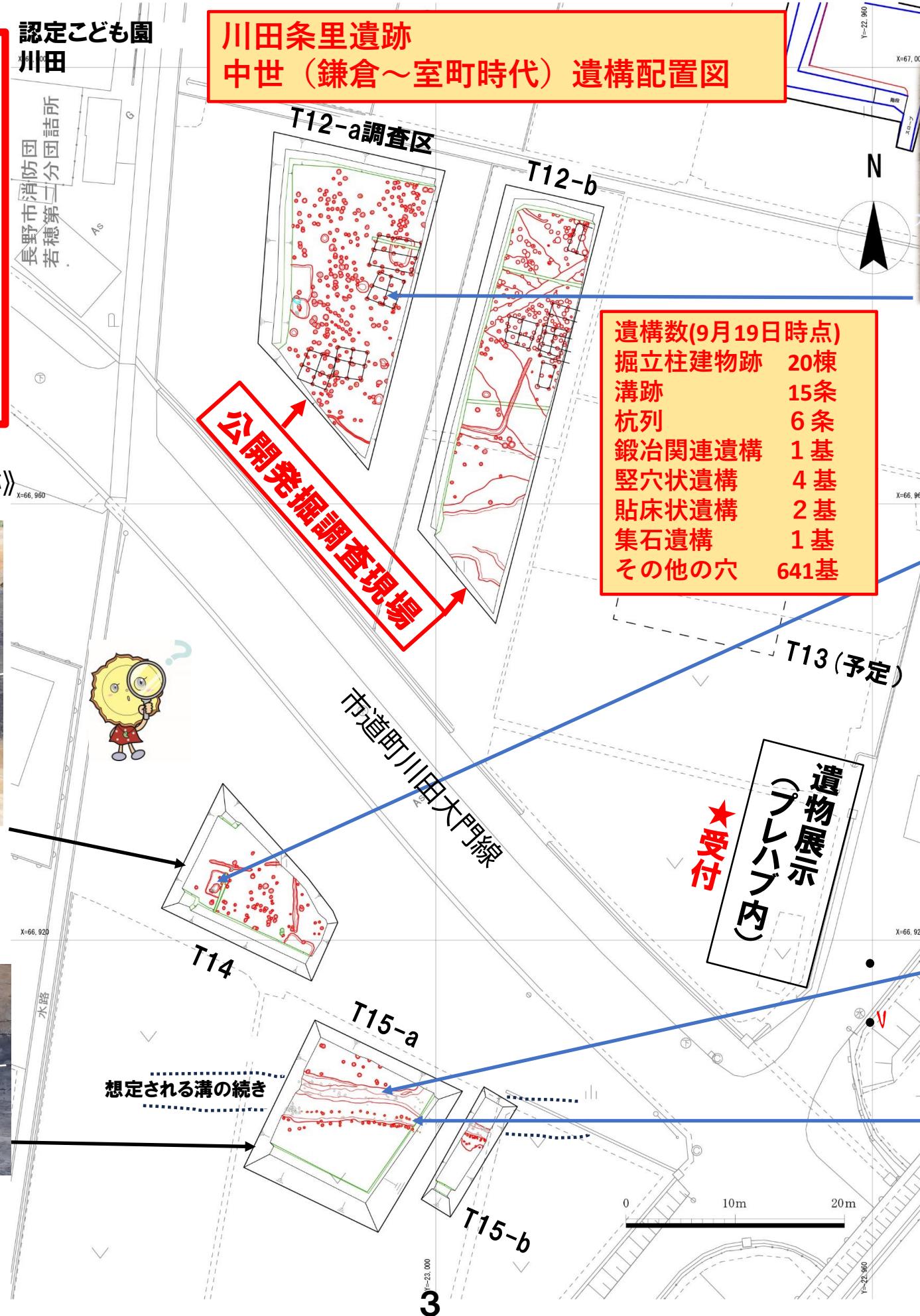


T15-a壁面では、畦の盛り上がり
が確認できました。（赤い矢印の部分、
点線とともに加筆）

認定こども園
川田

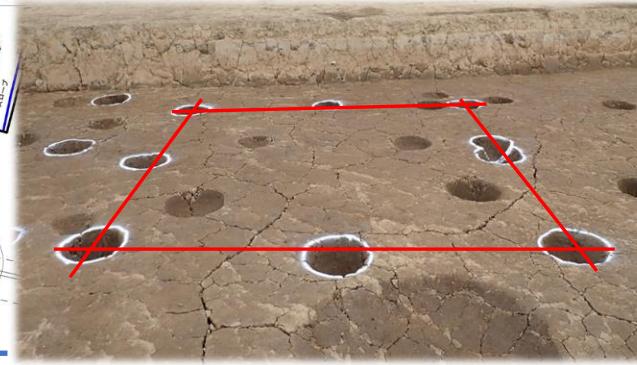
長野市消防団
若穂第二分団詰所

川田条里遺跡 中世（鎌倉～室町時代）遺構配置図



遺構数(9月19日時点)	
掘立柱建物跡	20棟
溝跡	15条
杭列	6条
鍛冶関連遺構	1基
竪穴状遺構	4基
貼床状遺構	2基
集石遺構	1基
その他の穴	641基

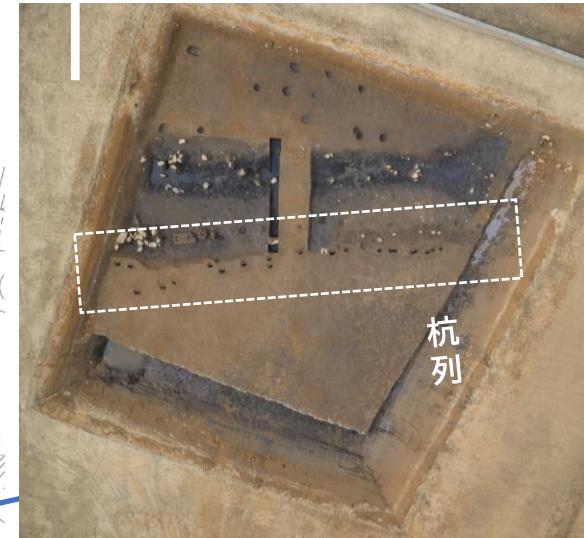
《発見された中世の遺構》



南北2間×東西2間の建物跡です。



石で囲まれた鍛冶関連遺構。
炭も多く散らばっています。



杭列



中世の溝跡と、その南側で溝にそった
杭列がみつかりました。